霞会館記念学習院ミュージアム

ミュージアム・レター

KASUMI KAIKAN MEMORIAL
GAKUSHUIN MUSEUM
霞会館記念 学習院ミュージアム

Museum Letter No.55

発行日 ● 令和7年(2025)2月10日

もくじ

ごあいさつ …… 1
ローブ・モンタント／色絵金彩鳳凰文煎茶碗皿 …… 2
刺繍鶴亀松竹梅文筥迫／ビーズバッグ／
　金銀瑞雲流水松竹梅文桧扇 …… 3
リニューアルオープン
　「霞会館記念学習院ミュージアム」のご案内 …… 4

リニューアルオープン記念展　ポスター

ごあいさつ

この度、一般社団法人 霞会館様よりの多大な御援助を頂きまして、霞会館記念学習院ミュージアムがオープン致しました。霞会館の前身である華族会館が華族学校として本院を創立され、明治天皇から学習院の勅額を賜ってより、来たる令和9年(2027)には百五十周年を迎えます。この記念事業の一つとして、当ミュージアム設立の構想段階より、歴代の霞会館理事長様をはじめ霞会館の御関係各位には、御支援・御協力を頂きました。心より厚く御礼を申し上げます。

当ミュージアムには学習院大学史料館の長年にわたる研究活動を通じて、多くの方々より、幅広い分野の貴重な作品の御寄贈を頂いており、その数は25万点を数えます。開館記念展「学習院コレクション　華族文化　美の玉手箱　―芸術と伝統文化のパトロネージュ」に展示致します「学習院コレクション」の全てが、貴重な文化遺産を末永く未来に伝えていきたいという御寄贈者様の想いの結晶であります。御寄贈頂きました各位に深く敬意を表すとともに、心より御礼を申し上げます。

ミュージアムは前川國男氏の設計になる旧大学図書館を大規模に改修し、全国でもトップレベルの展示収蔵設備を構える姿となりました。またこうした文化財を将来に確実に伝えていく有為の人材を育てる学芸員課程の拠点として、実践的な経験を積むことが出来る学習施設を併せ持っております。学術・芸術的に貴重な収蔵品を安定した収蔵環境で保存するとともに、収蔵品の調査・研究を通じて得られた成果を広く展示室で公開し、学習院の誇る文化芸術を発信する核として、当ミュージアムが活用されていくことを強く期待しております。

学習院長　耀（あかる）　英一

ごあいさつ

家の引っ越しは人生の一大イベントですが、この度、学習院大学史料館も引っ越しを行いました。大学図書館だった建物の改修工事を行い、「霞会館記念学習院ミュージアム」として再生した建物へと引っ越しました。学内での移動とはいえ、収蔵する史資料の再整理も伴うため、館員は直近の数年の間、移転作業に忙殺されていました。苦労の甲斐があり、引っ越しも無事に完了し、リニューアルオープン記念展を開催する運びとなりました。

この開館記念展では、当館が収集・調査してきた学習院の至宝の中から、主として皇族や華族にゆかりのある品々を展示いたします。日本の伝統文化を感じさせる逸品を、大きさや質感も含めて、ご鑑賞いただけると思います。また、新設した常設展示室では、学習院の歴史を感じられる内容を、特別展の会期外もご覧いただけます。在校生や教職員はもとより、卒業生やご家族の皆様がキャンパスを訪れた際には、ミュージアムにお気軽に立ち寄り下さい。最後になりましたが、ご援助いただきました一般社団法人 霞会館様に心より感謝申し上げます。

館長　狩野直和

リニューアルオープン記念展

学習院コレクション　華族文化　美の玉手箱

― 芸術と文化のパトロネージュ

ローブ・モンタント
平成時代　上皇后陛下より学習院へ下賜

展示期間：3月14日～3月22日

明治維新後の激動の中で、一番大きな変化があったのは、実は皇室かもしれない。それまで京都御所の御簾の内で、和装で、限られた人々とのみ謁見していた天皇は、東京へ移り、西欧諸外国の賓客接遇のために明治5(1872)年に洋装礼服を取り入れた。

一方、皇后の洋装化には時が必要だった。大日本帝国憲法発布が間近に迫った明治19年、伊藤博文首相・皇后宮大夫香川敬三などより洋装化を勧められた皇后は「国のためであれば何でもする」と並々ならぬ決意を表した。遂に同年7月30日、皇后は華族女学校の卒業式に初めてドレスを着用し臨席、日本女性の近代化の幕が開けた。

翌年の新年拝賀儀式からは、皇后はじめ皇族妃は洋装大礼服で臨むこととなった。この直後に皇后は「洋装は日本古来の「衣」と「裳」と同じであるから、洋装は理にかなっている。ただし、服を作る際には国産の生地と技術を用いること」という内容の「思召書」を発した。ドレス製作であっても、国産の生地を使用し、織や刺繍などは日本の伝統技法を用いることを推奨し、日本の伝統工芸技術や職人を守ろうとした。

この皇后の思召は現在の皇室にも受け継がれている。上皇后陛下はお会いになる相手やシーンに応じてお召し物を選ばれると共に、日本の伝統技術をいかすことに心を配られるという。このローブ・モンタントは絹地に葉や花びらの形に切り抜いた佐賀錦を留め付け、その縁取りや茎部分を金糸、銀糸を用いて日本刺繍の技法である駒縫いで表している。

明治の皇后の並々ならぬ決意が日本皇室の伝統となっているのである。

（学芸員　長佐古美奈子）

色絵金彩鳳凰文煎茶碗皿　幹山伝七
明治5(1872)～20(1887)年　有栖川宮家より男爵西紳六郎へ下賜　西家旧蔵

気品漂う鳳凰を金彩で描写し、細部に赤、青、緑を効果的に配した12客揃いの煎茶用碗皿。主文様の鳳凰の周囲の雲や草花、碗の口縁の輪宝文、皿の見込みの蓮弁文など、模様のほとんどを金彩で表現した豪華な逸品である。箱裏に「明治二拾年三月御拝領　桃印」とあり、その後有栖川宮威仁親王妃慰子が男爵西紳六郎へ下賜したのだという。

作者の幹山伝七(1821～1890)は瀬戸焼の陶工の家に生まれ、彦根藩の湖東焼に従事したのち、幕末に京都へ移住して磁器の製作を始めた。輸出陶磁器の製作が全国規模で盛んとなった頃、幹山は西洋顔料による華やかな色絵磁器で人気を博し、京都の陶工の中で頭角を現していく。明治5(1872)年の京都博覧会では、幹山製品は明治天皇のお買い上げとなり、その後宮内省から注文を得るようになった。とりわけ有栖川宮家への納品数は多く、現在三の丸尚蔵館収蔵の約600点に及ぶ和食器「色絵四季草花図食器」はよく知られる作品群である。

展示期間：通期

幹山は明治天皇の御用品に「幹山欽製」銘を記すことを許されたとされ、本作にも器の底裏に「幹山欽製」の染付銘がある。本作が天皇家の御用品なのかは今後の課題となるが、金彩をふんだんに用いた精緻な表現はその可能性を示唆するものである。天皇家から有栖川宮へ、のちに有栖川宮家から西家へ下賜されたものだったのかもしれない。

（EF共同研究員　森谷美保）

刺繍鶴亀松竹梅文筥迫
明治～大正期 山階宮家旧蔵

筥迫は江戸時代の武家女性が盛装の際に用いる懐中装身具。中には紙や懐中鏡、紅筆などを入れ、着物の胸元に挟み込んだ。表面に施された絢爛豪華な装飾は所有者の地位も示したという。本品は最後の薩摩藩主で後の公爵島津忠義の4女、山階宮菊麿王妃常子の所用品である。常子は香淳皇后の母である久邇宮邦彦王妃俔子の姉にあたる。筥迫の表面には金糸・色糸を取り交ぜた日本刺繍で鶴亀松竹梅文をあらわす。とじ帯には梅花蕾を刺繍した香袋がついている。

（学芸員　長佐古美奈子）

展示期間：4月15日～5月1日

ビーズバッグ
大正～昭和戦前期　侯爵山階家旧蔵

展示期間：通期

大正14(1925)年に侯爵山階芳麿と結婚した寿賀子夫人所用とされるビーズ製バッグ。愛らしい印象のピンク地のバッグは、開口部に象牙が用いられ、瀟洒なデザインがひときわ目を引く。鼈甲製の開口部を持つもう一方は、赤、青、黒、黄色のビーズによる華やかな幾何学文様が印象的である。

山階侯爵夫妻が結婚した1920年代、欧米ではアール・ヌーヴォーに変わる新たな美術・装飾様式「アール・デコ」が流行した時代だった。アール・デコはドレスや装身具といったファッションの分野で人気を博し、日本の華族夫人の装いにも取り入れられて、本作のようなバッグなどが作られたのである。

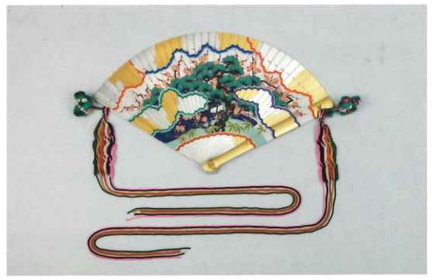
（EF共同研究員　森谷美保）

金銀瑞雲流水松竹梅文檜扇
大正14年(1925)　侯爵山階家旧蔵

檜の柾目の板を薄く剝ぎ、糸でつがって要を蝶と鳥をあしらった金具で留めた檜扇。元来は木簡を綴じ重ねたもので、備忘や、涼を招くために用いられた。後に、紙を貼った紙扇が流布すると、板製の檜扇は儀式用の具として形式化し、板の枚数や長さ、表面に描かれる絵、両端の親骨に付けられる飾りなどに様々な規定が生じた。檜扇は天皇以下、男女ともに用いられてきたが、特に女房が用いる濃彩で泥絵の檜扇は、顔貌を覆い隠す目的にも用いられたことから板数が増加し大型化して、大翳とも呼ばれた。近代以降、皇后はじめ女性が公的な儀式に出席が求められる中で、容貌を覆う目的での檜扇の用途は廃され、五衣唐衣裳や袿袴などの女房装束を着用する際に、閉じた檜扇に飾り紐を整えて巻き、胸の前で扇の頭を右高に両手で持つ様式となった。

この檜扇は表は金銀の霞に松竹梅の吉祥文。裏には蝶鳥の有職文様を配した美麗な檜扇である。親骨に松・梅の糸花を付けた山科流の仕立てで、六色の蜷結びを施した飾り糸を添える。侯爵山階芳麿夫人寿賀子が袿袴を用いた際の料である。

（EF共同研究員　田中潤）



展示期間：4月15日～5月1日

KASUMI KAIKAN MEMORIAL
GAKUSHUIN MUSEUM
霞会館記念 学習院ミュージアム

新たな大学博物館
「霞会館記念学習院ミュージアム」
が誕生しました。

学習院大学史料館は昭和50（1975）年の開館以来、史・資料の収集・保存、調査・研究、展示・公開を行い、数多くの展覧会も開催してきました。この令和７（2025）年春、当館は装いも新たに「霞会館記念学習院ミュージアム」として歩み始めます。

ミュージアムの建物は、前川國男設計の旧大学図書館を博物館施設としてリノベーションしたものです。外装は、前川建築に特徴的な美しいコンクリート壁を甦らせました。一方で内部は、機能的な博物館として生まれ変わります。1階には企画展などを開催する「特別展示室」と、学習院の歴史を紹介する「常設展示室」を設置。２階には博物館学芸員を養成する学芸員課程の学生が使用する実習室、展示室なども備えています。

特別展示室

常設展示室入口

常設展示室内

リニューアルオープン記念展

学習院コレクション
華族文化　美の玉手箱 ― 芸術と伝統文化のパトロネージュ

【主催】霞会館記念学習院ミュージアム
【協賛】一般社団法人 霞会館
【協力】株式会社世界文化社、株式会社キュレイターズ
【会期】令和７年３月14日（金）～５月17日（土）
【休館日】日曜・祝日・４/14（月）
　　＊ただし３/20（木・祝）・４/13（日）・４/27（日）は開館
【開館時間】10：00～17：00（入館は16：30まで）
【入館料】無料

【本展開催記念書籍】霞会館記念学習院ミュージアム編
『学習院コレクション　芸術と伝統文化のパトロネージュ』
世界文化社刊

【関連イベント】

学習院ミュージアム講座
「学習院コレクションとパトロネージュ」
本展を記念して、学習院大学文学部教授らによるシンポジウムを開催いたします。詳細は当館HPをご覧下さい。
日時：令和７年４月27日（日）14：00～（13：00開場）
会場：学習院創立百周年記念会館　正堂
　　＊入場無料・事前申込不要

学習院大学文学部教授・当館学芸員らによる
ギャラリートーク
日時：３月15日（土）、４月５日（土）、４月19日（土）、
　　５月10日（土）　各日14：00～
会場：霞会館記念学習院ミュージアム特別展示室
　　＊事前申込不要

◎最新情報は右の二次元コードより当館の公式X（旧Twitter）をご覧下さい。

ミュージアム・レター第55号

令和7年（2025）2月10日発行
〒171-8588　東京都豊島区目白1-5-1
電話　03（5992）1173
FAX　03（5992）9219

KASUMI KAIKAN MEMORIAL
GAKUSHUIN MUSEUM
霞会館記念学習院ミュージアム
https://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua